

(四) 保護者等の理解と協力を得る。
ア、保護者や地域の人々の意見の聴取
イ、望ましい国際理解のあり方の探求

六、研究計画(表2)

なお、研究発表日は、十月三十一日(金)で、二年間の研究成果を公開する。

— 国際交流をとおして
 広く豊かな心の
 育成を —
 県立須賀川女子高等学校

一、本校の現状と研究主題

(一) 本校の現状

本校は、一学年六年级の規模普通
 高校である。生徒の気質は、積極性
 という点ではややもの足りない面もある
 が、概して温和であつて、素直に指導
 に従い、まじめに学習に取り組んでい
 る。生徒の約六十パーセントが進学、
 四十パーセントが就職という進路傾向
 はここ数年変わっていない。

学校創立二十四年目を迎える歴史の
 新しい学校であるが、昭和四十四年か
 ら、地元須賀川ロータリークラブと提
 携して、オーストラリアの高校と定期

的に留学生交換を実施している。現在
 オーストラリアから留学生一名を受け
 入れ、本校からオーストラリアに一名
 アメリカに二名の留学生を派遣してい
 る。

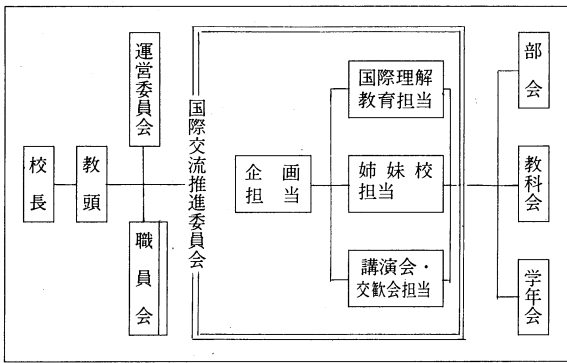
(二) 研究主題

「国際理解教育の研究ならびに文化
 交流の推進」
 — 国際性を身につけた心豊かな人間
 の育成を目指して —

〔設定の理由〕

学習指導要領の中に「進んで平和的
 な国際社会に貢献できる日本人を育成
 するため、その基盤としての道徳性を
 養う」ことが教育目標に掲げられてお
 り、これを受けて、本校の教育目標に

表1 研究組織



二、研究組織(表1)

三、研究内容および方法

(一) 研究内容

研究を進めるにあたっては、教科で
 は主として社会科・芸術科・英語科・
 家庭科など、特別活動等ではホーム
 ーム・生徒会活動・部活動のあり方を
 検討し、次のような内容で研究主題の
 実現を図ることにした。

- ① 国際理解教育について研究を推進する。
- ② 外国に姉妹校を設定し、交通を行うとともに、絵画等の作品の交換を実施する。
- ③ 姉妹校のある国の駐日大使館員を招き、その国についての講演会を実施する。
- ④ 在日外国人学校の生徒を招き、交歓会を実施する。

(二) 研究方法

本校は、昭和四十四年から須賀川ロ
 ータークラブとの提携により、定期
 的にオーストラリアの高校と留学生交
 換を実施してきた。この実績を生かし
 オーストラリアとの交流を軸とした研
 究を展開する。

- ① 研究が能率的、効果的に行われるように、校内に国際交流推進委員会を設け、有機的に機能させる。
- ② 授業やロングホームルームなどで、国際理解を深めるように工夫する。
- ③ 日本語講座を持つオーストラリアの高等学校の中から姉妹校を選定して、交流を図る。
- ④ 駐日オーストラリア大使館員の派遣を要請して、講演会を実施する。
- ⑤ 主として、オーストラリアより日本に留学している高校生を招き、生徒会活動を通して交歓の機会を設ける。
- ⑥ 英語指導主事助手等を招き、国際理解のための指導助言や講演などを実施する。
- ⑦ 校内に国際理解コーナーを設け、資料を展示して興味と関心を高める。
- ⑧ 教職員を対象とする校内研修会を開き、国際理解や国際交流に対する認識を深める。
- ⑨ 須賀川ロータリークラブおよび駐日オーストラリア大使館との連携を密にしながら研究を推進する。

四、研究計画(表2)